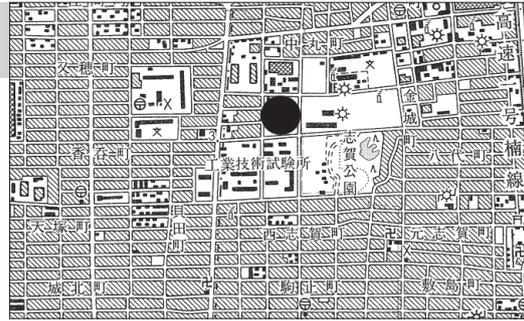


しがこうえん  
志賀公園遺跡

所在地 名古屋市北区中丸町二丁目地内  
調査理由 アーバニア志賀公園住宅建設  
調査期間 平成12年10月～13年3月  
調査積 2,030 m<sup>2</sup>  
担当者 石黒立人・中野良法・木川正夫



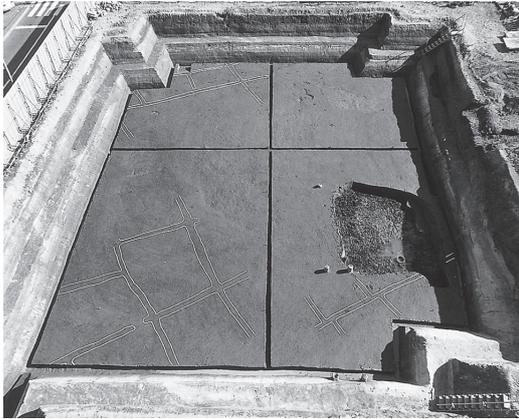
調査地点 (1/2.5万「名古屋北部」)

**調査の経過** 今回の調査は、アーバニア志賀公園住宅建設に伴う事前調査として、都市基盤整備公団より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。期間は平成12年10月から平成13年3月までで、総面積2,030 m<sup>2</sup>である。調査区は、A・B・Cの三区を設定して実施した。志賀公園遺跡では東側に隣接する神戸製鋼跡地で平成8～10年度に当センターが調査をおこなっている。

**立地と環境** 志賀公園遺跡は名古屋市北区中丸町二丁目に所在し、現地表面の標高は5.5 m前後である。志賀公園遺跡は弥生時代から中世(室町時代)へと続く複合遺跡である。隣接する遺跡としては、南方に志賀城跡や西志賀遺跡がある。

**調査の概要** 検出された遺構・遺物は、弥生時代中期(A期)、古墳時代中期(B期)、飛鳥時代～古代(C期)、中世以降(D期)の4時期に大きく区分できる。また遺構検出は、弥生時代中期は標高2.2 m前後、古墳時代中期は標高2.5 m前後、飛鳥時代～古代と中世以降は標高4.3 m前後でおこなった。

- A 期** A区で小畦畔とともに水田が26枚検出された(調査区中央部から南東部にかけては畦畔は不明瞭で検出不能)。1枚の平均面積は古墳水田(B期)より若干狭く約20 m<sup>2</sup>である。畦畔の方向は古墳水田と比較すると全体的に若干西にふれている。また、大畦畔らしきものは検出されなかった。遺物は耕作土から弥生土器小片約10点(中期;詳細時期不明)と打製石鏟(下呂石製)3点が出土した。
- B 期** A区で大畦畔(東西1条、南北2条)、小畦畔とともに水田が26枚検出された。時期は松河戸Ⅱ式期(5世紀頃)と考えられる。直上の植物遺体層からは若干の木製品(木製錘2点等)が出土した。
- C 期** 96年調査区で見られた7世紀頃の自然流路は南東から北西方向へ延びる形でC区全面、B区のほとんどとA区南西部にかけて検出された(幅35～40 m)。B区で自然流路埋没後の溝数条。また、流路北側に須恵器・土師器を伴う区画溝(南東から北西にのびるものとそれに直交するもの、そして東西または南北にのびるものあり。前者が比較的新しい。)約20条や竪穴住居4棟が検出された。
- D 期** A区とB区で平行に延びる区画溝2列。時期は14～15世紀。土坑群(長軸約1～2 mの楕円形または隅丸長方形)数グループ(計数十基、内A区の小土坑より完形の古瀬戸茶入が出土)、A区西部に柵列2条(幅約3.3 m、杭間の距離約2 m)、円形曲物積上げ井戸4基(14～15世紀)が検出された。また、B区で検出された焼土ブロック・骨片・炭化物の詰まった長楕円形土坑3基はそれぞれ付近に方形(または楕円形)土坑群を伴っているのものでそれ



A区 弥生中期水田検出状況（西より）



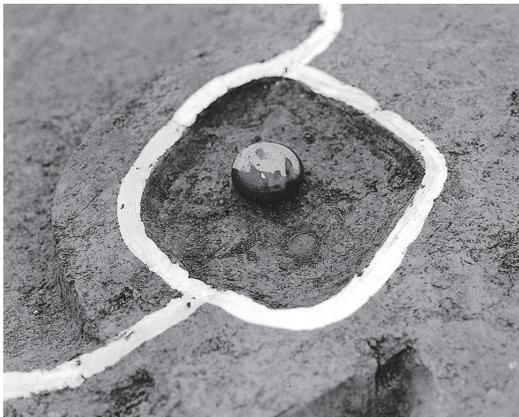
A区 古墳中期水田検出状況（西より）



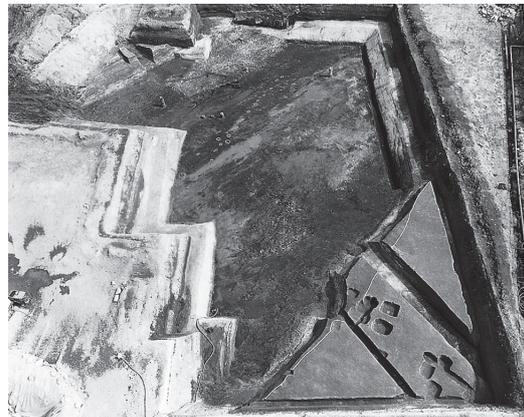
A区 古代～中世完掘状況（西より）



B区 古代～中世完掘状況（西より）



A区 古瀬戸茶入出土状況



B区 古代自然流路完掘状況（西より）

ぞれ火葬施設と埋葬施設の可能性が考えられる。いずれも14～15世紀。

ま と め 志賀公園遺跡は至近距離にある西志賀遺跡・平手町遺跡と違い弥生前期の遺構・遺物は検出されていない。また、今回弥生中期と古墳中期の水田が検出されたが、東側に隣接する以前の調査区では同時期の居住域や墓域が展開する。従って今回の調査区から西方にかけては地形的に低くなっていき、古代になるまでは居住に適さない土地だったようである。

（木川正夫）